

第52回刈谷市障害者自立支援協議会議事録

日 時 令和8年3月13日（金）午後1時30分～午後3時20分

場 所 刈谷市役所 1階 101会議室

委 員（敬省略）

<出席者>

愛知教育大学（会長）	都 築 繁 幸
医療法人 成精会	垣 田 泰 宏
社会福祉法人 ひかりの家	野 村 徹 也
社会福祉法人 観寿々会	橋 口 磨理子
認定特定非営利活動法人 パンドラの会	坂 口 伊久磨
特定非営利活動法人 くるくる	村 瀬 寿 子
刈谷市障害者支援センター	相 澤 道 子
刈谷市社会福祉協議会	神 谷 典 利
刈谷市身体障害者福祉協会	太 田 信 之
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	大 谷 悟
刈谷手をつなぐ育成会	篠 原 幸 弘
刈谷地区心身障害児者を守る会	大 南 友 幸
刈谷商工会議所	岡 田 行 永
衣浦東部保健所	新 美 萌 子
刈谷公共職業安定所	大久保 みどり
刈谷市教育委員会	佐 藤 裕 一

<欠席者>

刈谷地域精神障害者家族会	太 田 静 枝
刈谷児童相談センター	鈴 木 雄 二
愛知県立安城特別支援学校	安 藤 嘉 朗
刈谷市立刈谷特別支援学校	薬 丸 貴 之

(事務局)

福祉健康部 部長	加 藤 直 樹
福祉総務課 福祉調整監兼課長	加 藤 幹 雄
福祉総務課 課長補佐	加 藤 主
障害企画係長	丹 羽 康 人
普及支援係長	西 岳 浩 司
障害給付係長	泊 浩 之
主任主査	澤 田 泰 行
主任主査	今 枝 麻 友
刈谷市基幹相談支援センター 管理者	水 谷 い ず み
相談支援部会長	伊 澤 紀 明
子ども部会長	神 谷 清 美

<傍聴人>

1名

開会

資料の確認

- 資料 1 「刈谷市障害者自立支援協議会 各部会スケジュール」
- 資料 2 「各部会の令和 7 年度後期活動報告について」
 - 資料 2 別冊「防災マニュアル」
- 資料 3 「令和 8 年度各部会の主な検討事項」
- 資料 4 「部会長会について」
- 資料 5 「就労選択支援事業評価委員会の開催報告」
- 資料 6 「令和 8 年度刈谷市障害者自立支援協議会イメージ図（案）」
- 資料 7 「令和 8 年度刈谷市障害者自立支援協議会部会員名簿（案）」

事務局 : 本日は都築会長が、ZOOM でのオンライン参加となっている。

そのため、会長代理の刈谷病院の垣田委員に議事進行をお願いする。

1 議題

(1) 各部会の令和 7 年度後期活動報告について

…資料 1、資料 2、資料 3、資料 4、資料 5

委員 : 前回の協議会における中間報告以降も引き続き 5 つの部会で、資料 1 のとおり、それぞれの課題について検討を進めた。それぞれの部会について、報告をいただく。

<資料 2 により「各部会の令和 7 年度後期活動報告」>

地域生活支援拠点等検討部会

委員 : 補足として、重症心身障害者の方の登録者が 1 名増えた。

相談件数としては 11 名あり、そのうち 1 名のみが登録に至った。登録に至らなかった中には、グループホーム等の入所となり登録対象外になった方がいた。また、相談員から紹介をもらった方もいたが、現段階では登録に至らないケースもあった。引き続き、

各相談員の方たちが支援を行いながら、必要に応じて拠点の登録を進めていく。

委員：運営の評価について、評価にあたって評価者の意見があると思うが、どのような評価があったか教えていただきたい。

事務局：1番の相談について、委員から「ほとんどできていると思うが、まだまだ実績が乏しい、また形のないものであるため、ずっと改善が必要」との意見や、2番の緊急時の受け入れ対応に対する評価について、「緊急時等の想定は一定レベルでできているが、全ての利用者や種別において、まだまだなケースもある。」との意見。また、3番の体験の場についての評価について、「できている面とできてない面の隔たりがまだまだあるように感じるため、常に改善と発想が必要」との意見など、それぞれの項目で委員より、課題と意見をいただいている。

委員：次回より評価者の意見も記載してもらいたい。

就労支援部会

委員：就労相談員の配置の必要性の検討について、その就労相談員の役割はどのようなものなのか教えてほしい。

委員：高校を卒業した新卒の方への就労相談を受けることを検討している。また、3年間の就労定着支援を明けた方も、その後の連携について課題があるため、他市の状況を参考に検討していきたい。

委員：就労セミナーが盛況だったという報告だが、部会の委員でもある刈谷商工会議所の岡田委員より意見があるか。

委員：毎年実施しているセミナーであり、開催方法など試行錯誤しながら実施しており、今回 Zoom と会場でのハイブリッドでの開催とした。実際に働いてる方に講演をいただいたり、グループワークを今回実施しないなど、参加しやすい内容としたことが参加者の増加につながったと感じている。ただ、雇用されている方々同士でのつながる場としたいこととの両立が難しく、開催方法については今後も検討していく。

委員：参加者が増加したことはよいことと感じる。引き続き実施して
けるとよい。

次に刈谷公共職業安定所の大久保委員から障害者の方たちの就労
状況について、情報提供いただきたい。

委員：毎年度、6月1日付けでの企業の障害者の雇用状況報告では、愛
知県の平均障害者雇用率が2.4となった。全国平均よりは低い
が、これまで都道府県では後ろから2番目3番目だったところ、都道
府県で38位とずいぶん障害者雇用が進んできた状況。ただ、来年
度7月には障害者の法定雇用率が2.7%に上がる。すでに障害者の
雇用を進めたいという企業が実際にいる。また、ハローワークで
の求職者の状況でいうと、求職者の方は精神障害の方が非常に多
い。企業は採用になかなか踏み切れないこともあり、マッチング
が非常に難しい課題がある状況である。支援機関と連携しながら
支援している。

委員：LITALICO ワークス刈谷の提案で昨年10月から、就労移行支援
事業所が交代でハローワークに出向いて連携し、利用につなげる
ことをやっている。来年度も実施予定。ハローワークに来た方が、
体調をくずして、すぐに働くことができない場合に福祉サービス
につなげることもできたので、良い取組だと感じている。

委員：就労選択支援について、型が欲しいとの報告だが、型とはどのよ
うなものか。

委員：アセスメントシートの雛形のみみたいなものがあるとよい、との意
見であった。

委員：型がないという点では、厚生労働省等の資料を参考に基本にのっ
とって、その上で課題を出し合いながら刈谷市独自の形を作って
いけるとよい。

相談支援部会

委員：地域生活支援拠点等検討部会の報告でもあったとおり、臨時相談
支援連絡会について、福うさぎにて見学会を実施したようだが、

橋口委員から意見等あるか。

委員：福うさぎでは一人暮らしの体験の場、グルホンズではグループホームの体験の場を提供しており、相談支援の方に見学していただき、利用者さんにとってどういうふうな相談のとき使ってもらえるかというところを視点に見ていただいた。なかなか一人暮らしやグループホームを希望される方っていうのはいないが、今後、誰と住みたいか、どのように住みたいか、どこで暮らしたいかという意思決定支援は必須になっていく。そのきっかけ作りになるとよい。

委員：グループホームの体験利用や一人暮らし体験利用はせっかく制度としてできたので、いかに利用実績を広げて、多くの方に利用していただくかということが、継続的なテーマである。

委員：P15 ちょこっとささえあいについて触れている。この事業は高齢者が対象の事業と認識しているが、何か制度的な基盤があって行われているものなのか、民間の事業所により自発的に行われているような事業なのか。

事務局：長寿課の管轄になるため、わかる範囲での回答となる。ちょこっとささえあいの利用対象者は要支援もしくは要介護認定者、事業対象者、75歳以上となる。それに該当してくる障害者の方の場合は利用ができる可能性がある。利用料金は、1回300円30分まで。刈谷市が委託してる事業者によりボランティア活動センターの1階に受付が設置されており、利用者さんに対してサービスを提供する人を派遣するものである。

委員：この事業を地域生活支援事業等の刈谷市の事業として、取り入れて障害者の方に広げてくことは可能か。

事務局：地域生活支援事業のメニューとしてはないため現状難しい。

委員：報告の最後の方に出てきた相談員さん1人1人が抱えている業務量が多く、疲弊している状況という課題の記載について、刈谷市において相談員や相談支援事業所を増やすための取り組みはあるか。

事務局 : 相談支援部会の中で研修等への補助金の話題があったが、就職した後に辞められてしまうことや、働く条件はよいが長続きしないという課題があるため、補助以外での取り組みを検討した。その中で複数の事業所が人数の足りないところを補い合う協働モデルの実施に向けて検討している。来年度、複数事業者で1事例を実施していきたい。

部会長 : 相談員だけで行われてる連絡会等では1人2人の少数で行われている相談支援事業所に事例提供をしてもらい、1人じゃないんだという関係性はできてきていると感じている。連絡会、研修等は今後も続けられたらいいかと思う。

委員 : 協働モデルについて、異なる事業所間でこの体制を組む場合、価値観のすり合わせが重要であり、常に話し合いが必要になる。さらに、毎月の定例会など新たな業務負担が増えるという課題もある。会議体制を見直すなどで、負担の増えない体制にできるとよい。

子ども部会

質問なし

障害者防災部会

質問なし

会長 : 地域生活支援拠点等検討部会について、グループホームの体験利用事業を今後もぜひ進めてほしい。

就労支援部会について、雇用セミナーは今後もハイブリッド形式で行うことを前提に進めてほしい。

相談支援部会について、刈谷市のヤングケアラーの実態について報告をお願いしたい。また刈谷市内のスクールソーシャルワーカーの活用の成功事例も事務局から報告していただければありがたいと思う。

子ども部会について、包括的性教育のテーマでセミナーを開催す

るならば、刈谷市内の小学校、中学校、高校、特別支援学校の養護教諭、また保健指導主任の先生にも参加を呼びかけるとよい。障害者防災部会について、障害当事者のヒアリングを実施することはとてもよいこと。ぜひ今後も障害当事者の方々にヒアリングを行って、進めていってほしい。

委員：各部会の報告より令和8年度の各部会の主な検討事項を取りまとめると資料3の内容となる。

部会長会

<資料4により「部会長会の報告」>

質問なし

就労選択支援事業評価委員会

<資料5により「就労選択支援事業評価委員会の開催報告」>

質問なし

(2) 令和8年度刈谷市障害者自立支援協議会の体制等について

・・・資料6、資料7

事務局：資料6、資料7により来年度の協議会、及び各部会の体制を報告

委員：部会や連絡会において、当事者の方が入って意見を聞ける部会や、連絡会はあるか。

事務局：地域生活支援連絡会では、かりぴあトークという当事者の方たちが普段から気になっていることや、相談したいことを話し合う場所づくりを行っており、運営には、当事者の方が3名入っている。

委員：障害の種類は複数あるため、それぞれが同じ課題や生きづらさを抱えているわけでないため、障害の特性に合わせた当事者の意見を反映できるとよい。

委員：これからの継続課題としてぜひ貴重なご意見などで取り入れていきたい。来年度の体制および各部会における検討事項につきまし

ては、若干の修正等あるかもしれないが、事務局案の通り進めてまいりたいと思うがいかがか。

委員全員 : 同意

2 その他

特になし

委員 : 最後に福祉健康部長、一言お願いしたい。

事務局(福祉健康部長): 各部会長の皆様から令和7年度までの活動報告をしていただいた。それぞれ忙しい中で部会員の皆様が活発に意見交換をしながら御検討いただいたことに対しまして心からの感謝を申し上げます。今回は初めて障害者防災部会を立ち上げ、防災マニュアルを新たに作成することができた。引き続き、このマニュアルの有効活用方法について検討いただくが、このマニュアルを障害のある方にご活用いただけるよう進めていただければありがたい。

本協議会については今年度はこれで最後となるが、今後とも支援体制の充実に向け、引き続き皆様のお力を借りたいと考えているので今後とも、よろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

委員 : 以上をもちまして、第52回刈谷市自立支援協議会を閉会する。

以上